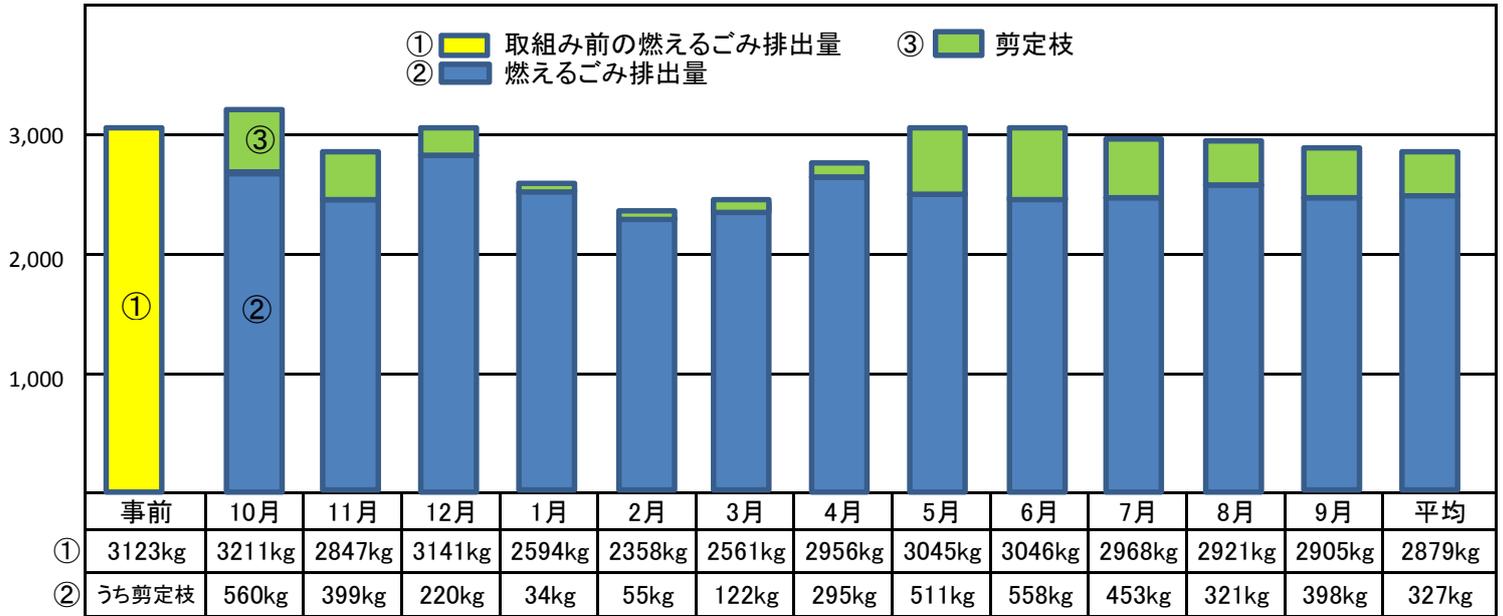


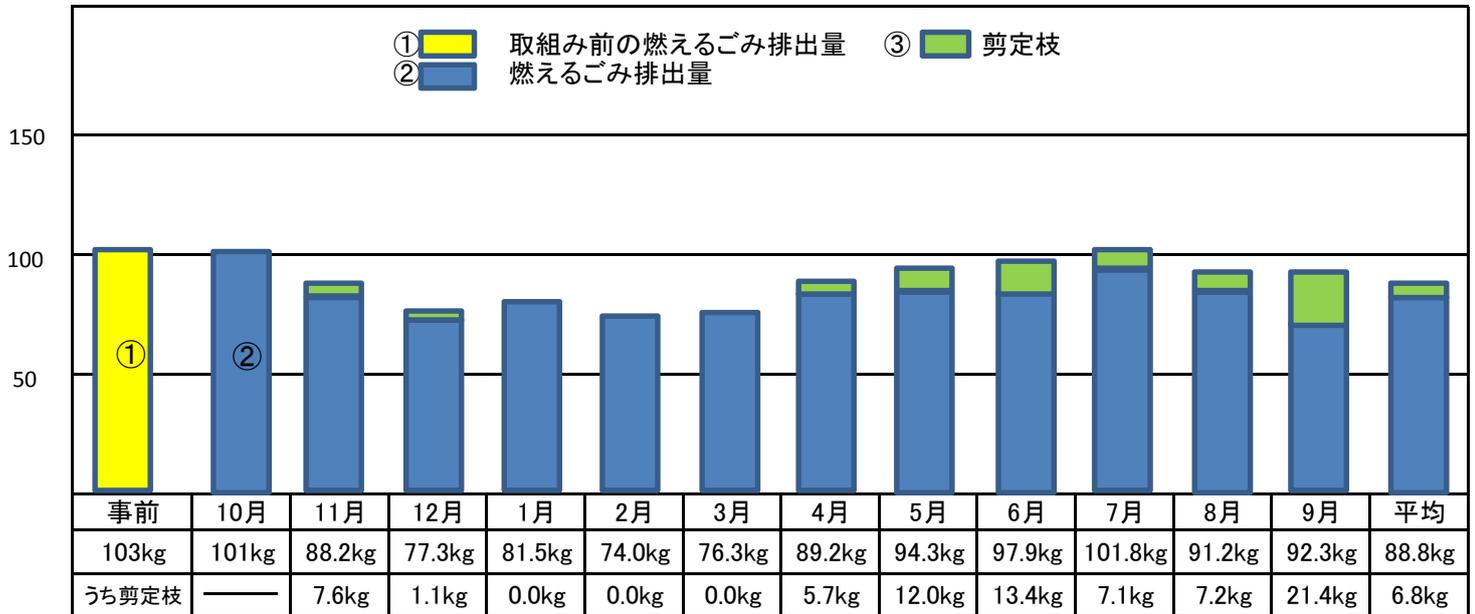
《報告書の元となる資料一覧》(ごみ半減会議活動の記録等)

- 1 モデル地区計量結果及び活動報告
- 2 壱分町東懇談会議事録
- 3 モデル地区意見交換会議事録
- 4 共学・共育WG報告書(まとめ)
- 5 社会変革WG報告書(まとめ)
- 6 トライアルモデル地区アンケート集計結果
- 7 ごみ組成調査分析結果報告(平成 25 年 3 月調査)
- 8 「ごみ減量化に向けて」アンケート集計結果(平成 23 年 10 月実施分との比較)



活 動 報 告	
H24年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区としての活動について自治会役員会で決定していること 回覧文書による啓発活動・ごみに関する勉強会・くるくる館の見学・不用品交換会等を実施する。 その他必要なことがあれば、随時実施する。 ・毎月回覧している自治会の議事録の最初のページに、その月の集団資源回収の結果を載せて協力を求める。 ・8月の組成調査結果等について啓発の回覧(別紙参照)。 ・キエーロ1台とベランダdeキエーロを1台希望者に使用してもらい、経過を役員会で報告する。 ・ベランダdeキエーロはかなりの量の土を入れなければならないので、使用開始時に土の入手が必要。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・11月10日 自治会集会所でごみに関する勉強会実施(生駒市衛生社から3名来ていただいた)。 ・11月17日 生駒市衛生社くるくる館見学会・ごみ分別についての研修会(自治会員対象 15名参加)。 ・ミックスペーパーのシールとトイレトペーパーを班長が個別配布して啓発活動。 ・キエーロ及びベランダでキエーロに投入した生ごみは消えていっており、特に問題はない。 ・自治会員から、ミックスペーパーを分別するようになってごみの量が減り、意識が変わったとの意見が寄せられた。 ・集団資源回収にミックスペーパーを出してもらうように回覧で呼びかける。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・不用品交換会の時期と内容について決定。(別紙) ・キエーロ及びベランダdeキエーロは、冬になると細菌があまり働かないため埋めた生ごみが消えにくい。 ヨーグルト入りの生ごみをしばらく放置して発酵させてから入れると消えた。 ・ごみを減らそうという意識のある家庭と、そうでない家庭の差がかなりある。今後、より多くの人に意識付けをしていくのが課題。集団資源回収の量が少しずつ増加している。
H25年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・1月27日(日)に不用品交換会、エコ料理についての講習会、使用済み食用油の回収を実施した。 (内容の詳細については別紙) ・リユースの試みとして意義があっただけでなく、自治会員間のコミュニケーションの機会にもなり、好評であった。 堅苦しい啓発より、楽しみながら情報交換し、口コミで広げることも必要。 ・キエーロの使用報告を聞いて使ってみたいという希望者2名からの問い合わせがある。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・以前からの活動の継続。 ・可燃ごみ計量結果について、毎月自治会議事録で報告。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けての役員引き継ぎ期間。 ・次年度のごみ半減モデル地区としての活動について検討。 ・集団資源回収の次年度計画及び回収拠点の検討。 ・ごみに関するアンケート協力 回収率:90.9%

4月	<p>今年度の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の自治会役員会議事録でゴミ計量結果等について報告し、協力の呼びかけを継続。 ・集団資源回収の結果についても毎月報告し、協力の呼びかけを継続。 ・今年度の集団資源回収場所と年間の集団資源回収予定、回収品目等についてのお知らせを全戸配布。 ・くるくる館見学、不用品交換会の時機について検討。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・くるくる館見学を7月13日に決定(6月にお知らせを回覧予定)。 ・3月のごみ組成調査の結果を役員会で報告、資源化できるものが可燃ごみにまだたくさん混入していることを自治会員に啓発(回覧) ・集団資源回収に更に協力してもらう方法等について検討。 ・キエーロは分解が早くなって使用上の問題は特にない。 ・可燃ごみ収集時に出土されている剪定枝の量が増加している。 ・自治会内一斉清掃を実施。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・くるくる館見学についてのお知らせを回覧。 ・ごみ出しのマナーアップの啓発。 ・集団資源回収が月1回なので、たまってしまっごみとして出す人もいるとの意見があるため、回数を増やすことも検討。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・7月13日くるくる館見学及びごみ分別についての研修会。 ・7月13日ごみ減量についての話し合い及び意見交換会(ひかりが丘自治会集会所)議事録別紙。 ・ミックスペーパーのことや分別についてなどまだまだ知らない人がいるので、更なる啓発について環境部で検討。 ・上記検討の結果、7月27日の自治会サマーフェスティバルで、環境部がごみの分別クイズによる啓発活動を実施。 ・サマーフェスティバルでのごみの分別の徹底。多くの自治会員の協力を得た。 例年通り、ダンボール、アルミ缶、スチール缶は分別して資源回収業者に引き取ってもらった。 ・不用品交換会を12月1日に実施し、同時に使用済み食用油の回収も行うことを役員会で決定。 ・7月13日の意見交換会の資料(アンケート結果、他地区も含めたごみ計量グラフ等)を自治会役員会議事録と一緒に回覧。 ・生ごみの分別回収実験について、ひかりが丘内の1ヶ所のごみ集積所で実施に向けて検討。 回収方法・・・各家庭に蓋付きバケツと生ごみ用ごみ袋を配布し、説明する。実施は8月末～
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・集団資源回収前期(3月～8月)のまとめ：前年同期と比較して総重量18.3%の増加。 雑誌&ミックスペーパーの重量は21%の増加。 資源物をできるだけ分別して集団資源回収に出していただくという呼びかけが効果があったと思われる。 ・生ごみの分別回収実験の準備。 ・生ごみの分別回収実験について、ひかりが丘内の1ヶ所のごみ集積所(50世帯)で実施のため環境部員が1世帯ずつ訪問して文書・ごみ袋・蓋付きバケツを配布して説明。みなさんが快く協力して下さることになった。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの分別回収実験について 90リットルの蓋付きポリバケツを可燃ごみ集積所の横に2個設置し、家庭から持って来てもらった生ごみを袋ごと入れてもらう(ポリバケツには大きなポリ袋を入れてある)。 ・ポリバケツに蓋があるので、匂いは気にならない。50世帯で90リットルポリバケツ2個は必要。回収量は計測中。 ・実験終了後(10月)、協力者を対象に生ごみ分別についてのアンケート調査を実施予定。 ・モデル地区の活動終了後、結果を自治会員に周知し、更なる減量の可能性について自治会で検討する。 ・集団資源回収を月2回にするため、回収場所について検討。 ・9月23日キエーロ情報交換会に4名参加。 ・ごみ出しマナーアップについての啓発活動。

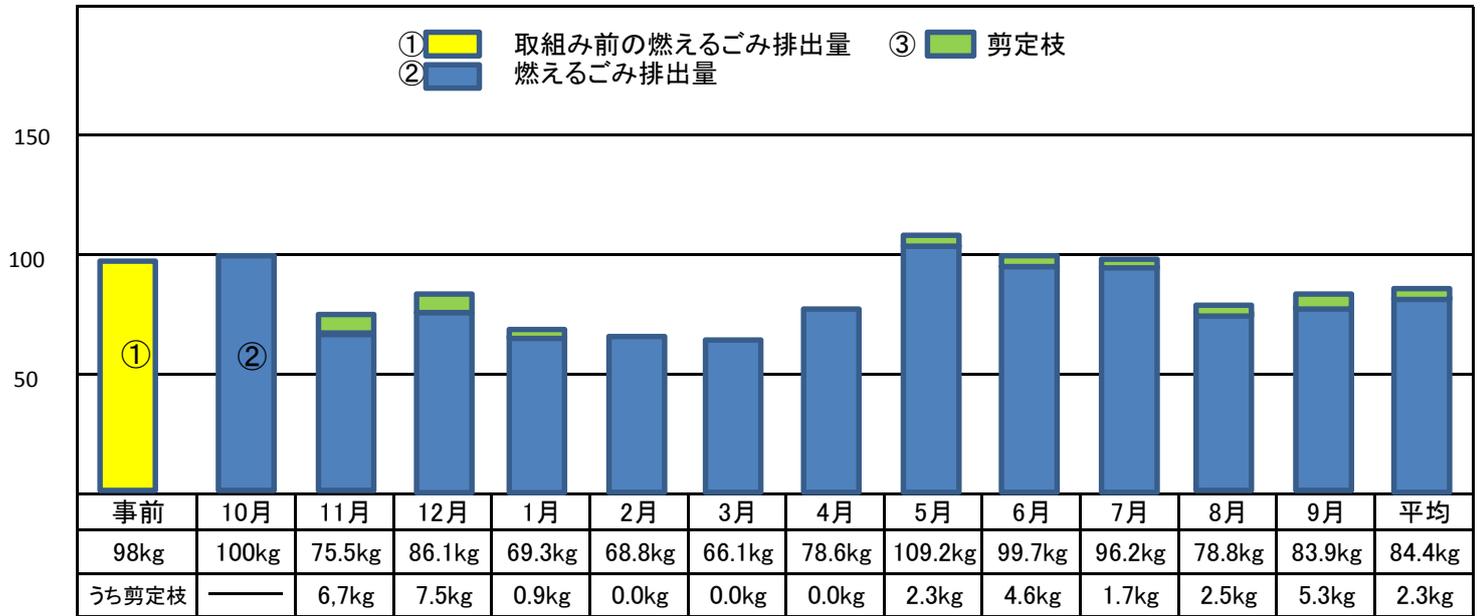


活 動 報 告	
H24年 10月	<p>1) 自治会回覧でゴミ半減トライアルがスタートしたことのアナウンスを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家の生ごみを再度チェックしましょう。 ・リサイクルへの協力 ・知恵を出し合っごみのダイエットに協力 <p>2) キーロをトライアルして頂ける方が決まった。</p>
11月	<p>1.啓発:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 市より提供されたトイレットペーパーとミックスペーパーシールを組長さんより戸別訪問にて配布し ごみ削減の啓発を行った。 2) 全体的には好意的で生ごみを自宅の畑等に埋めるようにするとかの前向きな意見も頂いた。 <p>2. 自治会回覧:</p> <p>ごみ半減への意識付けを目的としキーワード的な表現にて月2回程度回覧をしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新聞紙・衣類等の資源回収による子ども会等の活動収益への協力 2) ミックスペーパーシールの貼付による分別回収 3) 各家庭での目標: 100g減から始めませんか…… <p>3. キーロのトライアル:</p> <p>キーロ(第1公園)とベランダdeキーロ(ゴタニ池)各1台ずつトライアル中</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キーロは卵の殻、野菜の芯、魚の骨等は残っているが順調に分解されている。 2) 一方ベランダdeキーロでトライアル中の声として3ヶ所しか穴が掘れない。3日間ではごみが消えていない。 3) その為ローテーションが出来ず結局土を入れ替えている状況となっている。 4) 生ごみをキーロに入れるとき細かくすることがポイントとなっているので、簡単に細かくできる ツールがあれば便利では…… 5) ただ水分は吸収されるためごみの量としての削減は図られるのではと思える。
12月	<p>1. ごみ半減モデル事業推進状況の見える化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自治会回覧 <ol style="list-style-type: none"> (1) ごみ半減トライアル取り組み3ヶ月終了にあたり、該当組の皆様へのねぎらいとお礼を申し上げると共に、新年以降も継続しての協力をお願いした。 (2) ごみ半減会議で市より報告されている減量化の数値を壱分町東全体としてのグラフ化をして見える化を図っている。 2) 壱分町東自治会ホームページ <ol style="list-style-type: none"> (1) ごみ減量化の数値データに関しては上記(2)の実績値をトライアル地区(壱分町東)ごとの数値をHPに掲載して誰でもが確認できるようにしている。 <p>2. キーロのトライアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キーロ(第一公園) <ol style="list-style-type: none"> (1) 冬場になり分解するまで最低1週間くらいかかるようになった。 (2) 細かく砕くほど分解はされるため現在は包丁で砕いている状況である。

	<p>(3)6ヶ所ほど程度穴を掘っているが、全体感として生ごみは半分くらいになるのではという感触である。</p> <p>2)ベランダdeキエーロ(ゴタニ池)</p> <p>(1)11月度の報告にもあるが分解に日数がかかるため冬場は自宅裏の畑に穴をほり埋めている状況である。</p> <p>(2)砕き方によるが分解するまで1週間はかかっている。</p> <p>(3)分解促進剤を入れればよいのであろうがコスト的な問題もあり今は自然に任せている。</p> <p>(4)キエーロと同様に生ごみは半減位にはなるのではという感触である。</p> <p>3)今後の課題</p> <p>(1)冬場どのように処理をするのが効果的か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かく砕くツール ・分解促進剤の活用 その場合の費用負担等々 <p>(2)ベランダdeキエーロの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ①埋める穴がキエーロ6か所に比べ3か所程度の処理容量での活用の効率化 <p>(3)葉山町での特に冬場における活用実態の確認等の情報収集</p>
H25年 1月	<p>1.トライアル3ヶ月を経過し基準値に対し総体的には減少していることに対し、平素の削減努力への感謝を申し上げ、引き続きトライアルのお願いをした。</p> <p>2. ネオハイツの12月度が40%削減されているため、工夫した内容等につき情報収集を組長さんへお願いした。</p> <p>3. キエーロのトライアルをして頂いている方が計量をして頂いているので中間でのまとめをお願いした。</p>
2月	<p>1. 第2回ごみ半減トライアル会議開催日の決定(3月10日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆様の努力により少しずつですが減量化の効果が数値的にも見受けられる。 ・日頃の工夫されている内容また問題点についてトライアル期間の前半が経過するタイミングで意見交換を行い、後半に向けさらに意識付けの向上を図る。 ・懇談会資料のうちデータ関連を中心に市環境事業課に作成の協力を仰ぎ快諾をいただいた。
3月	<p>1. 第2回ごみ半減トライアル懇談会の実施(3月10日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)19名出席 2)出席者全員が前向きな考えで生ごみ処理等を中心に様々な情報交換ができ、後半6ヶ月のトライアルに向けての有意義な懇談会であった。 3)懇談会の具体的な内容は3月22日の全体会議で報告済みのため割愛。 <p>2. 自治会回覧</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)第2回ごみ半減トライアル懇談会を紹介 <ul style="list-style-type: none"> ①ごみ排出量推移のグラフと懇談会模様の写真を掲載。 ②昨年10月からのモデル事業は皆様のご協力のおかげで排出量は減少している。 ③水分を絞る・乾かす・コンポストやキエーロ等の活用の継続。 ④豚汁・だし昆布の佃煮等を囲みながらの苦労話がされた。
4月	<p>1.ごみ半減トライアルに関するアンケート調査の実施と集計</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)目的:ごみ半減トライアルモデル事業が半年を経過しさらなる意識の向上を図る。 2)実施期間:第2回懇談会出席者は懇談会開催日、欠席者は3月末までに回収。 3)アンケート回収率:53% (対象者:80名 回答者:42名) 4)アンケート結果(詳細別紙) <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ①アンケートに回答された方はごみ半減に前向きに取り組んでいることが伺われる。 ②資源ごみは全体として7割~8割強の方が分別をされている。 ③プラスチックは洗い等の手間を除けば全員が分別している。 ④ミックスペーパーは約9割の方が何らかの分別をしている。 ⑤新聞・雑誌・ダンボールは約9割の方が分別をしている。 ⑥生ごみ処理は半数以上が水切り等意識が向上されているが堆肥・分解等の対応は2割強である。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ①資源ごみの分別による削減は大きな期待が出来ないと思えることから生ごみの処理がやはり重要となっている。 ②キエーロのトライアルを試みたいが7%あることから堆肥・分解への取り組み拡大をしていくことがポイントと考える。

5月	<p>1. 壱分東自治会HPへ活動状況のアップ(誰でもが検索できる)</p> <p>1)ごみ半減全体会議で報告している4月末時点の活動状況を壱分東自治会HPにアップし啓発を図る。</p> <p>2)3月に実施した組成調査内容に基づき分析結果をまとめ同じくごみ半減全体会議にて報告した資料をHPにアップし啓発を図っている。</p> <p>《総論》</p> <p>①ごみ半減トライアルでの今後の減少は多くは期待できないと見るのが妥当である。</p> <p>②特に資源化可能な分別処理が実質期待できない状況であること。</p> <p>③今回の組成調査結果でも確認されたように生ごみが全体ごみの半数近くを占めているため生ごみの量を減少していくことがごみ半減を実現していくキーとなっている。</p> <p>④生ごみの資源化を含めた仕組みの構築も含めた対応を最優先として取り組むべきである。</p> <p>2. ごみ処理施設見学の計画</p> <p>1)本年3月に実施した第2回懇談会で要望されたごみ処理施設の見学に関し7月6日(土)実施で生駒市環境事業課へ依頼し3か所の見学コースとし案内している。</p> <p>①クルクル館(プラスチック製容器包装の中間処理施設)</p> <p>②マツユキリサイクル(紙類などリサイクル出来るも、リユース出来る物を収集し処理)</p> <p>③関西メタルワーク(びん、缶、ペットボトル等を収集し選別処理)</p> <p>2)現在トライアルしている住民と自治会本部役員を中心とした参加構成としている(20名程度を想定)。</p>
6月	<p>1. 自治回覧による啓発活動 キーワードによる触発</p> <p>1)トライアル残り3ヶ月を迎えさらなる協力をお願い。</p> <p>2)モデル地区への感謝を表し約20%程度削減がされる見込み。</p> <p>3)資源ごみ …まだまだできそう</p> <p>(1)ミックスペーパーは必ず袋に「ミックスペーパー」と表示して出す。</p> <p>(2)衣類・新聞等は子供会等の活動に協力願ひ。</p> <p>4)生ごみ もう一工夫のお願い</p> <p>(1)賞味期限をチェックして使いきりましょう</p> <p>(2)無駄買いはやめましょう</p> <p>(3)生ごみは水分をぎゅーと絞ってだしましょう</p> <p>2. ごみ処理施設見学の計画の最終確認(2013年7月6日(土)実施予定)</p> <p>(1)市環境事業課と最後の調整確認</p> <p>(2)参加者がバス定員(28名)になったため申込締め切りの案内(HPに掲載)</p> <p>(3)参加者予定 自治会員27名 + 環境事業課(大窪様)</p>
7月	<p>1. ごみ処理施設見学の実施(2013年7月6日(土))</p> <p>①クルクル館(プラスチック製容器包装の中間処理施設)</p> <p>②マツユキリサイクル(紙類などリサイクル出来るも、リユース出来る物を収集し処理)</p> <p>③関西メタルワーク(びん、缶、ペットボトル等を収集し選別処理)</p> <p>1)参加者: 壱分町東自治会 25名 生駒市環境事業課(大窪係長)</p> <p>2)従来良しと思って分別していたことが間違っていたことや不要であったことなど等新たな知識を得ることが出来た。(例:小袋、クリーニングカバー、等々)</p> <p>3)生駒市では缶、びんを分別せず同一の袋に入れて出して良い。</p> <p>これは一緒にいれることにより、缶がびんのクッションとなり砕けることの防止になっている。</p> <p>4)古着等の衣服は発展途上国、災害国に送ることによりリユースとして役立っている。</p>
8月	<p>1. 第3回モデル地区懇談会の実施(他モデル地区との意見交換会) 8月3日付議事録参照</p> <p>1)生駒市、ごみ半減全体のメンバーも含め35名の参加者となった。</p> <p>生駒市:3名、全体会議:7名、壱分町東自治会:25名</p> <p>2)壱分東自治会からは、毎回のごみの統計的な分析や「キエーロ」の使用感等について報告がありました。</p> <p>①統計的にみると、壱分東自治会では、ゴタニ池地区16%減、第一公園地区15%減、ネオハイツ地区17%減の効果がみられたこと。</p> <p>②1家族の排出ごみの傾向と地域全体の傾向は類似していることもわかったこと。</p> <p>③無駄をなくし、資源化への努力を自治会員に地道に啓発する必要があること。</p> <p>④「キエーロ」や「コンポスト」等を活用して、堆肥に利用したり、土に返す方法を工夫するのもひとつ。</p> <p>特に生ごみの水切りが、分解を促進するポイント。</p>

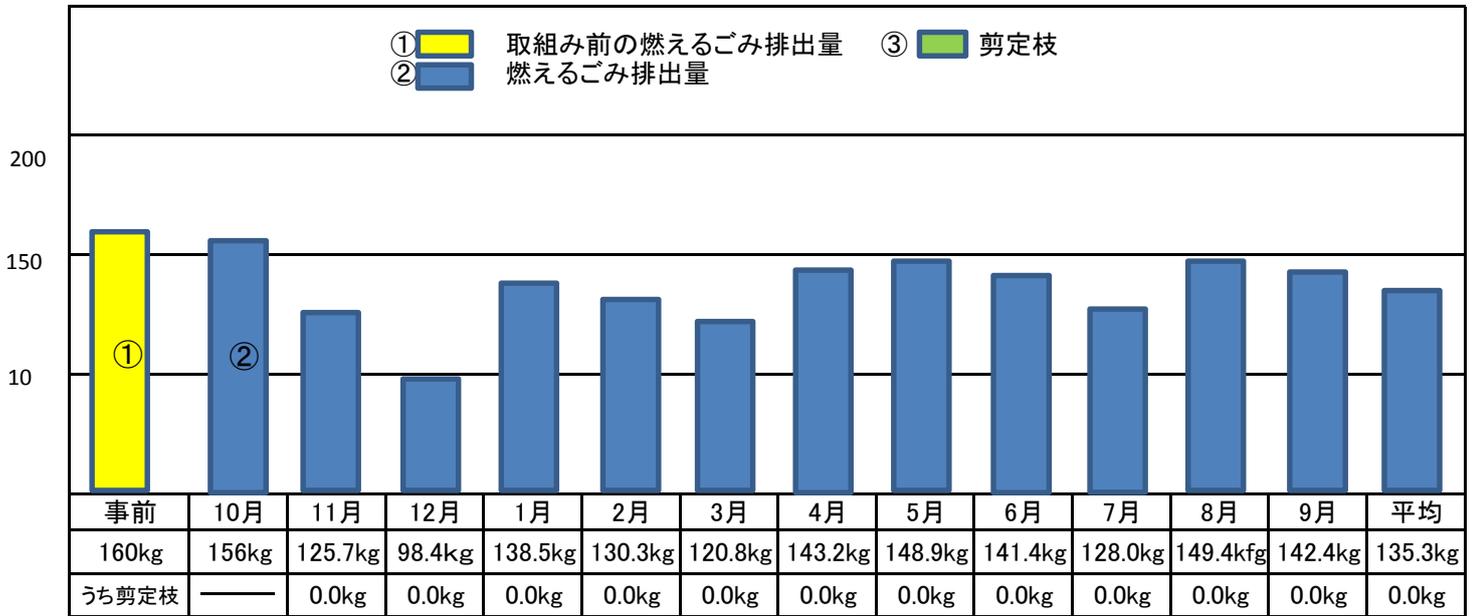
	<p>⑤市から提供された「ミックスペーパー」シールは、分別推進に効果を発揮していること。</p> <p>⑥このプロジェクトを契機に、市内のリサイクル関係会社を見学することになり活動の意義を深めることができた。</p> <p>3)ひかりが丘からは、活動の経過報告に加え、「ひかりが丘自治会サマーフェスティバル」での環境分別クイズや不用品交換会の実施を通して、自治会員への啓発を行っているとの紹介がありました。</p> <p>4)懇談会の途中には、昔懐かしい「いも粥」が準備され、ほっこり和やかな懇談会となりました。</p> <p>5)トライアル開始時期と比べ住民の意識も高まり従来とは違った住民の環が出来てきたのではないかと感じている。</p> <p>6)夏場をむかえスイカ等生ごみが増えて行く時期でごみの全体量も増加傾向にあるのが気がかりだがあと2ヶ月一工夫していけるよう皆様のご協力をお願いしたい。</p>
9月	<p>1. 住民へのトライアルのお礼</p> <p>1)9月でごみ半減トライアルが終了するにあたり1年間協力していただいたお礼をと手じまいをどのようにするか検討している。</p> <p>2)トライアル開始時には市より提供されたミックスペーパーとチラシを配布したことから終了時も市(環境事業課)からトライアル協力に対する感謝の意の簡単な文書があればケジメになるのではと考えている。</p> <p>2. キーロ意見交換会への参画</p> <p>1)壱分町東では3名の方がトライアルに取り組んでいただいている。</p> <p>2)総評としてはキーロは生ごみ処理にそれなりに効果があることは共通認識となっているが浸透・展開していくにはかなりの期間がかかるのでは思える。</p> <p>3)生ごみ処理の一つの手段ではあるがごみ半減のための主の手段ではなくコンポスト等と同様なレベルでツールの一つとしての位置づけになるのではないか。</p>



活 動 報 告	
H24年 10月	ゴタニ池地区と同じ
11月	ゴタニ池地区と同じ
12月	ゴタニ池地区と同じ
H25年 1月	ゴタニ池地区と同じ
2月	ゴタニ池地区と同じ
3月	ゴタニ池地区と同じ

活 動 報 告

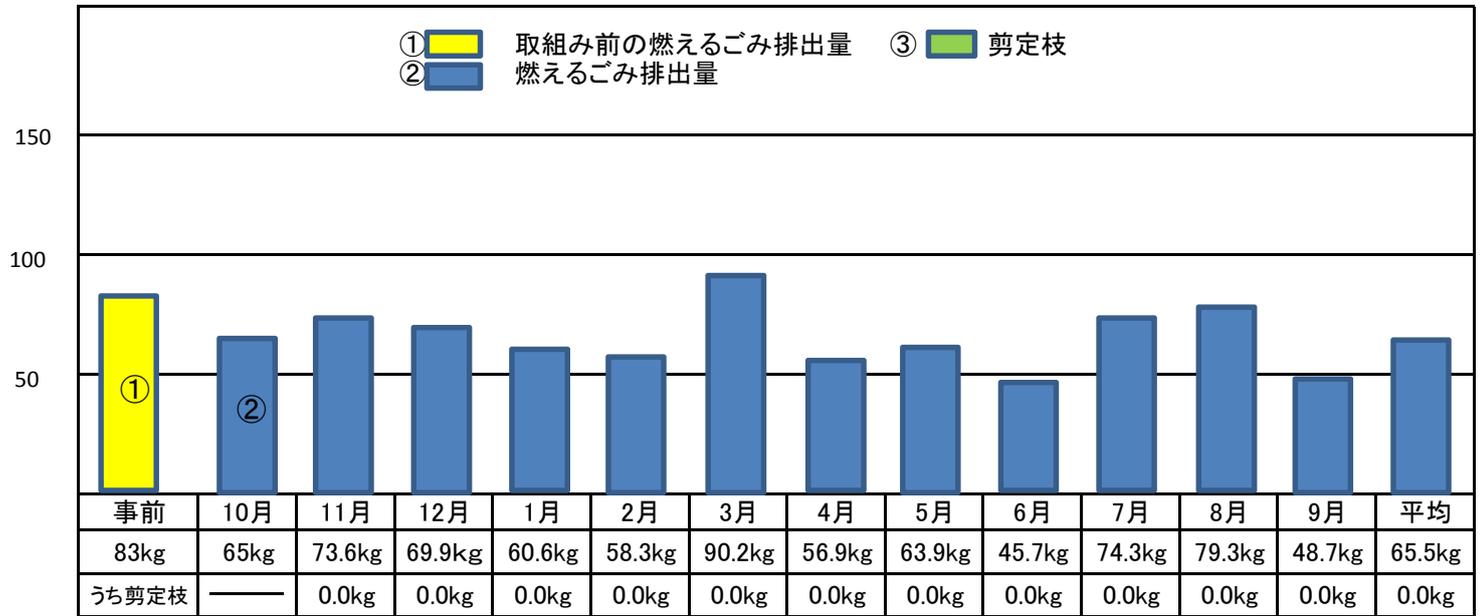
4月	ゴタニ池地区と同じ
5月	ゴタニ池地区と同じ
6月	ゴタニ池地区と同じ
7月	ゴタニ池地区と同じ
8月	ゴタニ池地区と同じ
9月	ゴタニ池地区と同じ



活 動 報 告	
H24年 10月	ゴタニ池地区と同じ
11月	ゴタニ池地区と同じ
12月	ゴタニ池地区と同じ
H25年 1月	ゴタニ池地区と同じ
2月	ゴタニ池地区と同じ
3月	ゴタニ池地区と同じ

活 動 報 告

4月	ゴタニ池地区と同じ
5月	ゴタニ池地区と同じ
6月	ゴタニ池地区と同じ
7月	ゴタニ池地区と同じ
8月	ゴタニ池地区と同じ
9月	ゴタニ池地区と同じ



活 動 報 告	
H24年 10月	住民にごみ半減トライアル開始に際して分別徹底のお願いをした。 集団資源回収協力のプリント配布、マンション内に掲示。
11月	ミックスペーパーの分別の徹底のお願いを戸別で実施。 ミックスペーパーシールの利用についてお願い。
12月	新規の活動は特になし。 引き続き、ミックスペーパー分別の強化などを行った。
H25年 1月	新規の活動は特になし。
2月	キューロ ベランダタイプを石川宅にお試しに設置。
3月	新規の活動は特になし。

活 動 報 告

4月	町内清掃の後、マンションの方に分別回収のお願いをする(アルミ缶、食品トレーなど)。
5月	小学校の集団回収の任期終了。 6月よりマンションで集団資源回収を開始する手続きを完了。
6月	集団回収1回目(回収金額640円) 集団回収の結果をまとめたチラシを回覧、エントランスに掲示。
7月	集団回収2回目(回収金額675円) 集団回収の結果をまとめたチラシを回覧、エントランスに掲示。
8月	集団回収3回目(回収金額1080円) バンベール生駒で意見交換会開催(8/17 9時半～) 集団回収の結果をまとめたチラシを回覧、エントランスに掲示
9月	集団回収4回目(回収金額1215円) 集団回収の結果をまとめたチラシをエントランスに掲示。 回収金額がずっと増えているのが皆さんの励みになっているようです。

2. 壱分町東懇談会議事録

各位

2012年9月25日

壱分東自治会

ごみ半減トライアル壱分東第1回懇談会について以下の通りご報告いたします。

1. 日時 : 2012年9月22日(土) 午前10時~12時
2. 場所 : 壱分東自治会館
3. 出席者 : 計30名(敬称略)
生駒市環境事業課 大窪係長 南
衛生者 藤中 井上
生駒市ごみ半減会議 藤尾 坂本
壱分東自治会 藤尾自治会長
2組(第一公園 11名) 14組(ネオハイツ 2名) 16組(ゴタニ池 10名)

4. 懇談内容

1) 環境事業課大窪係長より資料に基づき説明

- (1) ごみ半減プラン・なぜごみ半減トライアル(トライアル計画の経緯)
- (2) 2012年8月8日実施した組成調査結果の説明
- (3) 神奈川県葉山町での取り組み状況の紹介

2) 壱分東の現状について(坂本より資料に基づき説明)

3) 質疑応答

<主な意見>

【ごみ半減に対する基本的な問題】

- (1) ごみ半減には反対ではないが循環型、共生社会を目指すとするが具体的なイメージが描けない。ごみ半減を何故しなければならないかの理由がわからない。
- (2) 例えばプラスチックは分別後どのように資源化され効果がどうなっているのか。分別しても結局まとめて焼却されているのであれば意味がない。
- (3) 分別後の流れを効果も含めて具体的に知りたい。
- (4) トライアルの地域だけでなく地域全体に対し説明が必要ではないか。
- (5) 有料化がありきになっていないか。
→市より完全否定の回答はされている
- (6) ごみ半減に対し他人ごとと感じておりトライアル対象組でも意識が低いのが伺われる
- (7) 10年後に半減となっているが長すぎるのではないか。向こう1年とかであれば逆にやろうという気持ちになる。

【分別に関する問題】

- (8) 剪定枝の資源化はどうなっているのか
→現在検討中であり具体化されていない
- (9) 使用済み油の回収に関し曜日及び時間幅を増やせないか。
- (10) 水切り等の知恵は出るのではないか。
- (11) 仕事を持たれている家庭は分別に手間暇をかけられない事情もある。

4) 総評

- (1) 今回実質初めて直接住民への説明であったため出席者の疑問点、問題認識に温度差も見受けられたが、かなりの本音ベースでの意見交換が出来たことから有意義な懇談会であったと言える。
- (2) ごみ半減運動に関しほとんど情報を持たれていない方が多数おられ何故ごみ半減をしなければならないかに関する疑問を持たれている方が多かった。
市よりごみ半減プランをベースに説明をしたが一部のかたは効果面等の具体性に納得感が得られていない様子である。
- (3) ごみ半減プランは生駒市HP並びに広報等でごみ半減につき随時掲載されている
が多くの方が認識されていないということが実態である。
- (4) 今回の欠席者及び無関心層へ今後どのようにPRをしていくかがごみ半減を推進していく上で大きな課題と言える。
このことは壱分東だけの問題ではなく市全体の問題と危惧される。

5) まとめ

- (1) ごみ半減トライアルは地道に一步一步進めていく必要がある。
- (2) 今回の懇談会で認識の共有が図れたものと理解する。
- (3) ごみ半減についての疑問点は具体的に生駒市環境事業課と納得いくまで話し合うことが必要。
- (4) 今回参加されていない方へ隣人から話をされ一人一人仲間を増やしていく必要がある。
- (5) トライアルでは出来ることから実践し推進状況は壱分東自治会回覧並びに壱分東HPに随時掲載していく。

6) キエーロ

キエーロを希望される方は一度生駒市役所に設置されている状況を確認の上9月末までに坂本まで連絡。3人以上の場合は調整となる、

以上

各位

2013年3月10日
壱分町東自治会

ごみ半減トライアル壱分町東第二回懇談会について以下の通りご報告いたします。

1. 日時 : 2013年3月10日(日) 午前10時～12時
2. 場所 : 壱分町東自治会館
3. 出席者数 : 計19名
他イベントと重複したため今回は市よりの出席はなく当自治会会員のみ。

4. 懇談内容

- 1) 壱分町東におけるトライアル推進経緯を資料に基づき説明
- 2) トライアル期間におけるごみの量の推移を資料に基づき説明
 - (1) モデル地区ごとの推移(2013年1月末現在)
 - (2) 壱分町東のある家庭(4人家族)でのごみの排出量を資料に基づき説明
 - ① 期間 : 2012年11月3日から2013年2月16日で収集日単位に計量
 - ② 内容 : もえるごみ、生ごみ、プラ別の集計
- 3) キーエロによる生ごみ処理のトライアル状況の報告
 - (1) 生駒市環境事業課での分解トライアル状況を写真にて説明
 - (2) 壱分町東におけるトライアル状況を実施している各家庭より説明
- 4) アンケート実施(以下コンセプトで実施)
 - (1) アンケートの目的を明示し回答に負荷をかけない(1ページ)
 - (2) 6ヶ月のトライアル実施を踏まえての具体的なイメージのQとする
 - (3) 生ごみの処理と資源化への分別に的を絞ったQとする

5. 総評

- 1) 出席者全員が前向きな考えで様々な情報交換ができ後半6ヶ月のトライアルに向けさらなる意識付けになり有意義な懇談会となった。
- 2) 出席者の中には各家庭での工夫や悩み等を具体的に聞くことができ分別への意識向上に繋がったと言える
- 3) 特にキーエロの状況については現在コンポスト等で堆肥処理をしている方若しくは水きり以外されていない方々々の背景に関係なく興味を持たれた模様であった。
- 4) キーエロはベランダdeキーエロよりキーエロの方が分解処理の効果があるように見受けられる結論としては各家庭での環境を考慮しコンポストとかの組み合わせが効果的といえるのではないかと
- 5) ごみの減量は継続していくことが重要であることから日常生活の流れでの仕組みの工夫を實踐していくのがポイントではないかと
例えば発生主義で分別できるようにするとか無理をせず足元のできることから実践していく。
- 6) 市より提供されたミックスペーパーシールは好評で分別に大いに役に立ったといえる。
- 7) 12月度トライアル集積所の一つであるネオハイツでは12月度40%の削減がされたが主な要因として資源化分別の意識付けと牛乳パック等スーパーへの持込増加が考えられる
- 8) 今回は環境に優しい具たくさんの豚汁とごはんを囲みながら懇談であったためよりアットホーム的に情報交換が出来たといえる

6. トライアル家庭からのキーエロの状況説明

- 1) 野菜系は分解されるのが早い。野菜の芯、玉ねぎ皮(茶色)、魚の骨、卵の殻等は分解されない。
ただベランダdeキーエロの方は野菜等といえども分解はされていない模様。
- 2) 3箇所程度の穴が適当であり容量からみても効果的と思われる
・ベランダdeキーエロは3箇所でも窮屈の模様
- 3) より細かくする前処理が重要であり包丁で切り刻んでいるがかなりの重労働である。
電気分解の方法もあるがコスト面の問題がある。
- 4) 効果的に分解させるには埋めっぱなしではなく途中掘り返す必要がある。
- 5) 水分により土がベチャベチャになり適度に土の交換をしている。
・ベランダdeキーエロの方がベチャベチャ度は高いと思われる(恐らく構造上の原因と思われる)
- 6) ベランダdeキーエロの家庭は冬場でもあることから現在は使用せず隣接の畑に生み堆肥処理をしている。
- 7) 現時点ではキーエロの方が分解処理には総体的にみて優位性が高いとの評価となる。
- 8) 今後の夏場のトライアルでの分解程度、臭い、虫等がどうなるのかがポイントと考える

7. 出席者からの主な意見

1) 意識付け

- (1) 例えばオレンジをジャムにしたりダイコンの皮等今までは生ごみとしてだしていたものを工夫をして調理をするようになり贅沢をしないようになった。
- (2) ミックスペーパーシールを家族にも話し分別するようになった
- (3) 仕事にかこつけて今までは熱心に分別をしていなかったが色々な情報をいただきそれではいけないという気持ちになった
- (4) ごみの量をグラフ化等での説明を受け減量に取り組んでいる状況が見えて良かった
- (5) 分別はまーいーやーと思うとしなくなる。分別していくという意識が重要
- (6) 収集日以外の日に排出したり収集後に排出しているのを見かける。
良識の問題であるがこの辺も徹底していく必要がある
- (7) 処理場の見学ツアーの企画をお願いしたい
 - ① 集積所から回収されたものがリサイクル工場等でどのように処理されているのか見学したい。
 - ② このことが意識向上にもつながるのではないか。
 - ③ 市の公募ではなく吉分町東としての見学がより効果があると考え
→ 市環境事業課に相談し見学できるよう企画し案内をだすこととした

2) 資源化分別

- (1) 分別には手間がかかるものであり手間をいとわないで分別することが重要
- (2) 分別の仕方につき具体的には話が聞けたので今後実践していきたい
- (3) 発生した時に処理できるよう分別しやすい器を事前に用意しておくことがポイント
- (4) 冷蔵庫等目に見える箇所に分別チェックシートを貼っておく。家族にも分別を促す効果がある
- (5) 分別は意識しているがブラの種別が多いのでお上げの状況である
例えば食料品でブラと思っていると紙と貼付してあったりしている。

3) 生ごみ

- (1) 水切りをしたあとしばらくおいて置くと軽くなる
- (2) 水切りをしっかりとるようになった
- (3) キーエロの話をもっと直接聞けたことは良かった
- (4) コンポストを利用し堆肥処理をしているが上へ上と積んでいくために1台では処理が仕切れず3台の台数が必要となる。コンポストは重たいため取り出すのに苦労をしている。
キーエロとさらに比較をしたい。
- (5) 電気分解で処理をしているがカビが発生する問題が生じている。
- (6) キーエロを是非トライアルで使ってみたい

4) その他

- (1) ごみの量は減量されているのは事実であるが最後の詰めをどうするのが課題ではないか。
- (2) 生活の中で市よりサービスを受けている中で無償なのはごみの収集くらいではないか。
他自治体特に南地区はほとんど有料化になっているはずである。
このまま単純に無料化が良いのかとは簡単に言えないのではないか。

8. アンケートの実施

前向きな考え方が多かったこともあり回答もその傾向が顕著に現れた結果となっている。

Q.1 生ごみの処理についてお伺いいたします。(複数回答OKです)

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1. 水切りをトライアル以前より意識的にするようになった | 66.70% |
| 2. 庭若しくは畑等で堆肥・分解をしている | 46.70% |
| 3. 特にしていない | 6.70% |
| 4. キーホのトライアルをしてみたい | 13.30% |

Q2.プラスチック製容器包装の分別についてお伺いいたします

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. 洗いをしてほとんど分別している | 73.30% |
| 2. 洗いをしなくてすむものは分別している | 26.70% |
| 3. 特に分別をせず焼えるごみと一緒に排出している | 0 |

Q4.ミックスペーパーの分別についてお伺いいたします

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. ほとんど分別をしている | 46.70% |
| 2. 手間がかからないものは分別している | 40.00% |
| 3. 特に分別をせず焼えるごみと一緒に排出している | 13.30% |
- (理由)分別するスペースがない・時間がない

Q6. 新聞・雑誌・ダンボールの分別についてお伺いいたします。

- | | | | |
|-------------------------|----------|----------|---------|
| 1. ほとんど資源回収として排出している | | | |
| 2. 時々分別をしている | | | |
| 3. 分別をせず焼えるごみと一緒に排出している | | | |
| 【新聞】 | 1. 86.7% | 2. 13.3% | 3. 0% |
| 【雑誌】 | 1. 80.0% | 2. 6.7% | 3. 6.7% |
- (理由)面倒だから
- | | | | |
|---------|----------|--------|----|
| 【ダンボール】 | 1. 80.0% | 2. 20% | 3. |
|---------|----------|--------|----|

備考:Q3, 5, 7は回答がしていないと答えた方の理由を伺っている。

3. モデル地区意見交換会議事録

モデル地区意見交換会議事録（ひかりが丘）

7月13日 15:00～17:00 ひかりが丘自治会集会所

参加者： 17名

ひかりが丘自治会：藤堂、福中、北原、浦方、中島、小川、吉田、島田、脇元、村田、
高橋

ごみ半減会議：藤尾、坂本、下山、田中、藤中(生駒市衛生社)

生駒市：環境事業課辻中課長

議事録担当： 藤堂、福中

当日は、くるくる館へひかりが丘自治会役員、環境部員が中心となって13:30から見学に行き、その後、ごみ減量についての意見交換会を実施した。

準備していただいた次第は使用せず、だいたい次第に準じた内容で実施した。

※議事録については、できるだけ時系列で記載した。

※以下、発言者については、分かりやすいように、ひかりが丘自治会の参加者は（ひかりが丘参加者）、ごみ半減会議メンバーは、（半減会議メンバー+名前）、藤堂と福中は両方に所属しているので名前のみ記した。

ただし、藤中氏は、半減会議メンバーであるが、生駒市衛生社としての意見を述べていただいたので（生駒市衛生社 藤中）、辻中課長は（辻中課長）と記した

<ひかりが丘自治会会長挨拶>（藤堂）

今回はごみ半減会議の他のモデル地区である壺分東から藤尾さんと坂本さん、モデル地区以外の半減会議メンバーである下山さん、田中さん、環境事業課辻中課長、生駒市衛生社藤中さんが参加してくださっていることの説明。藤堂がごみ半減会議の会長も務めていること、半減会議WGの説明と、藤尾さんがモデル地区WGのリーダーであることの説明。

<ひかりが丘自治会のこれまでの取り組み及び経過について説明>（藤堂）

- ・昨年度はくるくる館見学を役員対象と、一般自治会員対象に分けて2回実施した。
- ・回覧、自治会の議事録等でごみ半減や、集団資源回収についてお知らせしている。
- ・昨年11月にごみに関する勉強会及び話し合いを実施。
- ・今年2月に不用品交換会を実施。今年度も実施予定。

- ・住民に協力いただいて、集団資源回収の量、特に紙類の量が増加している。雑誌とミックスペーパーと一緒に計量されているため、ミックスペーパーが増加したと断定はできないが、7月の集団資源回収での雑誌&ミックスペーパーの量が昨年同期のほぼ2倍になっている。

→この説明は、他地区からおいでいただいている方に向けてというよりむしろ、ひかりが丘で役員、環境部員等が交代しているため、ひかりが丘自治会の参加者に再度ひかりが丘の取り組みを説明するところから始めたかったため。言いかえれば、そこから説明しなければならないレベルにあるということでもある。回覧やお知らせをみんなが読んでくれているのか？←（ひかりが丘の問題点）

<各モデル地区のごみ量の変化を示したグラフについての説明>（辻中課長）

（藤堂）全体として減少しているが、季節（月）によってばらつきがある。最近のグラフの増加を見るとリバウンドなのか？

→（生駒市衛生社 藤中）年末にごみが増えて、2月にガクッと減り、また増えるという通年変化があり、リバウンドというよりも、グラフの増減はその通年変化と一致している。

（ひかりが丘参加者）グラフに剪定枝は含まれているのか？

→（辻中課長）含まれている

<ひかりが丘のアンケート結果についての説明>（藤堂）

- ・回収率 90.9%で非常に多くの方に協力していただいた。
- ・生駒市がごみ半減に取り組んでいることを知っていると感じた人が 94%、お住まいの地区がごみ半減のモデル地区ということを知っている人が 89%いるという非常良い結果が出ている。いいかっこして知っていると感じた人はいないか？→（しかし、アンケートに答えることが啓発につながるのかもしれないと会議後に藤堂は思いました）
- ・モデル地区になってからごみを削減しようという意識が「とても変わった」「少し変わった」と答えた人が 93%いるのに、ごみの量が「とても減った」「少し減った」と答えた人は 83%であり、意識が変わってすぐごみが減ることにつながらない場合もある。
- ・1週間に出す45リットルごみ袋の数が1袋未満、一袋程度と答えた人が 61%だが、生駒市衛生社が実際に収集していてそのような状況だと認識しているか
→（生駒市衛生社 藤中）必ずしもそのような印象は持っていないが、少ないごみでも45リットルのごみ袋で出しているからかもしれない。
- ・最近の水切りの状況はどうか？
→（生駒市衛生社 藤中）以前に比べて、袋に水分がたまっているものはなくなった。

※これはみんなが水切りを意識するようになってきた成果か？

(藤堂) 本日ひかりが丘以外のモデル地区の一つから来ていただいている壺分東の活動について簡単にご報告いただきます。ひかりが丘としても参考になるところがあると思います。

<モデル地区WGリーダー挨拶> (藤尾)

本日はわざわざお時間を取っていただきありがとうございます。モデル地区として、このような会合をもっと早い時期に持つべきだったのですが、今になってしまいました。モデル事業終了の9月までの期間、お互いがんばりましょう。本日は、堅苦しくならないようざくばらんに話し合いをしたいと思います。

<壺分東地区活動報告> (坂本)

- ・自治会から資料で配布したようなお知らせを月2回出している。その内容に、斜め読みしても分かるよう意識してごみ減量についての啓発やお知らせを載せている。
- ・回覧は見てもしっかり読んでいる人ばかりではないし、過ぎればわすれてしまう。デジタル世代の人にも対応していつでも見てもらえるよう、ホームページを立ち上げ、回覧にホームページアドレスを載せている。
- ・モデル地区になった時の話し合いでは、なぜごみを減らさなければならないのかということからかなり厳しい本音の意見を出し合ってきた。
- ・運動を進める上で、地域に情報を伝えてくれるキーマンを探した。
- ・その結果、積極的に関わって、キエーロの実験でも毎回計量をしてくださるなど熱心に取り組んでいただけの方がおられる。
- ・モデル地区活動を契機に、地域としての意識が変わり、地域のまとまりができた点がとてもよかった。

<くるくる館見学の感想>

(ひかりが丘参加者)

- ・行って説明を聞いて、今までの自分の思い込みが間違っていたことを知った。
例：包装用プラバンドはプラだと思っていた。
プラを小袋に入れて大きな袋に入れてはいけないことを知らなかった
→共感の声が半減会議メンバーも含めて多数
- ・プラとそうでないもの、特にクリーニングのカバーなどが分かりにくいし、なぜそうなのか理解できにくい。
- ・以前、自分が間違っていた時に、近所の人がそれはこうだよと教えてくれた。自分も今後、機会があれば他の人に伝えたい。
- ・文字で読むより、実際に見ることが大切だと思った。できるだけたくさんの人に見学

してもらいたい。

- ・プラの中に不燃物など入れてはいけないものが混じっていることに驚いた
(半減会議メンバー下山) 市が配布した冊子等をよく読めば分別方法が記載されている
→ちゃんと読んでいないのだなーという参加者全員の反応

<困っていること、分別について、ごみ減量について何でも>

(参加者女性たち)

- ・家で分別をしているのは自分のみ。夫の協力が無い。
 - ・夫がごみ箱に捨てたものを拾って再分別している。
 - ・家族一人一人がごみ箱を使っているので、それをごみ出しの時に分別するのは大変。
 - ・夫にまず伝えて協力してもらえようになりたい

(ひかりが丘参加者男性) 今まで分別についてあまり知らなかった。

(半減会議メンバー坂本) 自分も男性で、今回のモデル地区活動に加わることによって意識が変わった

(ひかりが丘参加者) 意識すると可燃ごみの中にずいぶん紙があることに気付いた。ミックスペーパーとして出すものが徐々に増えてきた。

(半減会議メンバー藤尾) ミックスペーパーのシールは利用したか

→利用したという人、他の人にあげたという人、見たことがないという人あり

(半減会議メンバー藤尾) 以前、市からビン・缶やペットボトル等の分別用袋を配布していた。そのようなものがあつた方が分別の意識付けになるのでは？

→賛同の声あり

→(藤堂) ひかりが丘自治会では、プラ分別用の袋を自治会で作って配布している。しかし、家庭によって袋の必要量に差があり、余ってしまっているとの声もあつたので、今年度は希望者のみに配布してしばらく配布を中断している

(半減会議メンバー) 配布方法を工夫すればいいのではないか。

→使わずに残っている袋を回収し他の人にまわす。

(半減会議メンバー坂本、藤尾) びん・缶を洗って出してほしい。関西メタルワークへ見学に行ったらひどい匂いだった。

→同意見あり (福中)

(半減会議メンバー田中) 洗って出すのが当たり前。自分で洗っている。

→他にも当然洗っているという人もいたが、男性である田中さんの意識の高さに驚いた人も。ジュース缶は洗うがビール缶は洗わない、触ってベタベタした時のみ洗うという人も

(ひかりが丘参加者) このような会合に出てくるのは役員のみである。自分は役員として参加することによって意識が変わった。一般の会員みんなになかなか伝わらない。
※自治会の一般会員に参加して貰うのは難しいので何か工夫が必要である。

(ひかりが丘参加者) 可燃ごみの日に、段ボールや新聞などが出されているが雨に濡れても大丈夫なのか。

→ (生駒市衛生社 藤中) パッカー車の上に載せるので雨の日は困っている。できれば雨の日は避けていただきたい。

→ (福中) 自治会の集団資源回収は雨天でも回収する。

→ (ひかりが丘参加者) しかし、回収が月 1 回ということや回収場所の関係などから、定期的に来る回収業者に出している人もまだ多くいる。

→ (藤堂) 自治会では、集団資源回収の場所や回数について現在検討中である。

(ひかりが丘参加者) ミックスペーパーが燃えるごみにまだ多く混じっている。

(半減会議メンバー藤尾) ミックスペーパーのシールがまだ役所にあるか確認して利用すればよい。

(福中) ミックスペーパーのシールもよいが、小金井市では市の職員が古新聞でミックスペーパーを入れるための「ペーパーバック」を手作りし、欲しいという市民に役所で配っている。生駒市の職員の方に作ってほしいということではないが、手作りの「古新聞のペーパーバック」は雑紙回収の意識付け、啓発活動になっているので紹介した。

(藤堂) 買い物の時にマイバッグを持参しているか？

→参加者中 2 名を除いて挙手

挙手はしたが、レジ袋をもらうこともあると言う人もいた。

また、店頭でもらえる箱を利用しているという人もいた。

(辻中課長) レジ袋の有料化について、現在事業者と話し合いを進めている。奈良市も同様である。県全体で有料化を実施したところもある。

(半減会議メンバー下山) レジ袋は可燃ごみとして捨てられるケースが多い。可燃ごみの中のレジ袋の割合は 6 %程度だが、実際、一人当たり年間 300 枚ほどのレジ袋をもらっていることになる。レジ袋の削減は、ごみの減量だけでなく、CO₂ の削減にもつながる。市の環境フェスティバル等でアンケートを取ると 7 割程度の方が有料化賛成と答えるが、実際にスーパー店頭で買い物客に同じ質問をすると、賛成する人は 5 割以下である。

(半減会議メンバー藤尾) 実際に有料化になってしまえばそれが当たり前になるのかも

参考：生駒市衛生社さんが制作された「レジぶくろのぼうけん」という絵本

(半減会議メンバー下山) 生ごみを分別回収する実験をしたら協力してもらえるか
→どうやって回収するのか？匂いは？近所の人がいやがらないか？あまりやりたくないという意見も

(福中) ひかりが丘の一つのごみ集積所(50世帯)のみなさんをお願いして実験をする予定です。方法等については早期に明らかにして実施したい。

ご協力ありがとうございました。

ひかりが丘自治会からの追加報告

- ・当日の話し合いから、できるだけ多くの住民に知っていただきたいこと(例：ミックスペーパーなど)がまだまだあることが分かり、一つの手段として、7月27に予定しているひかりが丘サマーフェスティバルにおいて、啓発を予定している自主防災会とテントをシェアして啓発活動を実施することにした。
- ・今年度も不用品交換会を実施することを確認した。(12月1日予定)

モデル地区意見交換会議事録(壱分町東)

第3回ごみ半減トライアル懇談会につき下記の通りご報告いたします。
今回はトライアル最終に向けて他地区との意見交換会として実施しています。

【日時】 : 2013年8月3日(土) 午前10時～12時
【場所】 : 壱分町東自治会館
【出席者】 : 計 36名(敬称略)
生駒市: 環境経済部 掘次長
生駒市: 環境事業課 辻中課長、大窪係長
全体会議: 藤堂会長、小山、森住、下山、田中、福中、衛生社(藤中)
藤尾、坂本
壱分町東自治会: 藤尾会長 他22名

【内容】

1. 藤尾自治会長挨拶
2. 生駒市環境経済部 掘次長挨拶
3. 生駒市環境事業課から説明(辻中課長)
 - 1) ごみ半減トライアルモデル地区のごみ排出量について(別紙)
 - (1) 2012年10月からスタートし本年5月度までの実績に基づき各モデル地区の状況を説明された
 - (2) モデル地区としてはひかりが丘、壱分東(3地区) 俵口の計5地区が対象となっている
 - (3) ひかりが丘は住宅地全体が対象で他地区は集積所単位でのトライアルである
 - (4) 地区により対象世帯数は異なっているが全体の傾向として15～20%近くの減少となっている。
4. 壱分町東トライアル取り組み状況の報告(坂本・各資料に基づき説明)
 - 1) ごみ半減トライアルモデル地区活動報告に基づき2012年10月から2013年6月までの活動内容を月次に説明した
 - (1) 啓発活動としては自治回覧と自治会HPに掲載しキーワード的な表現としている
 - 2) 第1回懇談会の内容を説明(2012年9月25日に開催)
 - (1) 地道な啓発活動が必要
 - (2) ごみ半減トライアルに対する情報の共有化が図れ10月からのスタートとなった
 - 3) 第2回懇談会の内容を説明(2013年3月10日に開催)
 - (1) 出席者が前向きな考えで日常生活のなかで色々と工夫されている取り組み内容の情報交換ができた
 - 4) 2013年3月に実施したアンケート集計報告
 - (1) アンケートに回答された方はごみ半減に前向きに取り組んでいることが伺われる
 - (2) 資源ごみは7割～8割強の方が分別をされている
 - 5) ごみ組成調査結果分析結果報告
 - (1) 2012年8月と2013年3月に実施した組成調査の対比分析結果の報告
 - (2) 生ごみがどの地区も約40%占めており生ごみ処理の具体的な施策が最優先に取り組んでいくことが大きな重要課題となっている
6. 壱分町東モデル地区ごみ半減トライアルの推移
7. キエーロの状況紹介(新町)
 - (1) 直近の1週間の状況を写真を基に説明された
 - (2) 久しぶりにキエーロの蓋を開けたところトマト・かぼちゃの茎が成長していた
 - (3) 新たに生ごみを埋めたところ1週間後の確認では消えていた

5. 他モデル地区活動紹介

1) ひかりが丘(藤堂)

- (1) HPは無いため自治会回覧での啓発活動を行っている
- (2) 不用品交換会の実施(2013年1月27日)
 - ① リユースに役立っただけでなく自治会委員のコミュニケーションの場となり情報交換ができた
 - ② エコ料理の講習会と使用済み食用油の回収も同時に実施された
 - ③ 次回は2013年12月1日に実施予定
- (3) ひかりが丘自治会サマーフェスティバルの開催(2013年7月27日)
 - ① 自治会環境部主催による分別クイズによる啓発活動の実施
 - ② 子どもから高齢者まで楽しみながら分別について考えることができた
 - ③ ダンボール、アルミ缶、など資源物は資源回収としてだした

2) 俵口

欠席のため辻中課長の全体説明での紹介

6. 意見交換(芋がゆを楽しく味わいながらの意見交換)

1) キーエロ

- (1) キーエロで3日程度で分解されると言われているが分解は通常40日かかると言われている
- (2) 分解ではなくあくまでも見えなくなったという現象といえる
- (3) 特殊肥料を使用すればすぐに分解度を増すことができる
- (4) 29KGで2,000円程度であり約半年は使える
- (5) 他地区でのキーエロのトライアルをされている方から水分の使い方、掘り起こし、混ぜ方等効果的な使用方法を紹介された
- (6) キーエロについては別途時間をとり情報交換をする機会が必要と感じた

2) 使用済み油

- (1) 壱分町東自治会館に設置されているが油を運ぶことを考えるとどうしても足元(車)の良い他の回収場への持ち込んでいる

3) 分別への意識

- (1) ごみを減らすことは難しいと感じている
- (2) ネオハイツは管理人が分別し易いように集積箱を設定して頂いているので分別処理をしていく支障はなく住民は分別を行っている
- (3) このトライアルを通じ個人的には意識が変わってきたと思える

4) トライアル終了後の対応

- (1) 本年9月でトライアル終了となっているがその後の対応につき質問があった
- (2) 市環境事業課より現時点具体的に決まっていないがトライアルでされてきた活動は今後是非継続していただきたい

7. まとめ

- 1) トライアル開始時期と比べ住民の意識も高まり従来とは違った住民の環が出来てきたのではないかと感じている
- 2) 夏場をむかえスイカ等生ごみが増えて行く時期でごみの全体量も増加傾向にあるのが気がかりだがあと2ヶ月一工夫していけるよう皆様のご協力をお願いしたい

以上

ごみ半減モデル地区意見交換会議事録（俵口町）

【日時】平成25年8月17日（土）午前9時30分～10時30分

【場所】俵口町バンベール生駒エントランス

【出席者】モデル地区：11名（9世帯）

半減会議：藤堂会長、藤尾WGリーダー、坂本、下山、福中、藤中（生駒市衛生社）、山口

生駒市：辻中課長、大窪

【内容】

1. 環境事業課長あいさつ

2. ごみ半減会議よりあいさつ

- ・藤堂会長
- ・藤尾WGリーダー

3. 今までの取組みについての報告

- ・ごみ排出量グラフについて（環境事業課）

地区により数値は異なるが、どの地区でも取組み前と比べて15～20%ほど削減できている。

- ・他地区の活動紹介（ひかりが丘・壱分町東）

時間の都合で詳しい紹介は割愛し、配付した活動報告を見ていただくことになった。

4. 意見交換会

○ごみを減らすために何をしているか

- ・紙で水分を取ってから捨てるなど、水分を切るようになった。
- ・ペットボトル、ペットボトルのキャップ、トレイは必ずコープに持って行っている。また、陶器もコープに持って行っている。
- ・エレベーターのところに張ってある資源回収の啓発を見て、やる気がアップした。
- ・マイバッグを利用するようになった。
- ・スイカの皮は、アースをかけて外で干してから捨てている。
- ・捨てるごみの種類を書いて貼ったごみ箱を家の中に置いている。孫が来た時

に「おばあちゃんのところは大変」と言われた。いい勉強になると思っている。

- ・賞味期限を意識するようになり、その結果「もったいないごみ」が減った。電気式の生ごみ処理機を使っていることもあって、燃えるごみの量はだいぶ減ったと思う。
- ・乾燥まではさせていないが、穴あき袋を使って水を切っている。
- ・会社勤めなので、分別は会社では前からやっていたが、家庭でも意識するようになった。その結果ごみは減ったと思う。

○わからないこと・困っていること

- ・燃えるごみの中に紙おむつが多いが、これは仕方ないと思っている。
- ・分別ごとのごみ箱を家の中に置くので、見栄えが悪くて困っている。
- ・プラ分別の時に、どの程度の汚れならOKか基準が難しい。
- ・プラ、ミックスペーパーなど、収集後の処理の仕方を聞けば、出せるもの・出せないものの判断がしやすくなると思う。
- ・資源ごみの収集が月1回だと家にごみがたまるのが困る。

○その他

- ・分別するようになったら、プラスチック製容器包装が多いことがわかった。
- ・ミックスペーパーを集めたら、意外と多いことがわかった。ミックスペーパー分別用のシールをもらったのがよかった。ずっとほしいと思う。
- ・新聞・雑誌などは、今まで幼稚園の資源回収に持って行っていたが、持って行けない分は燃えるごみに出していたので、集団資源回収で出せるところがマンション敷地内にできてよかった。
- ・マンション内に資源ごみの収集についてのお知らせがあるので、それが啓発になっている。

□ 総括

共学・共育WGは、市民の皆さんにごみ半減に興味を持って実践していただくため情報発信したり、ごみ半減のための手法を考え学習するためのグループです。

ごみ減量のための市民への働きかけ(Facebook、広報)や、ごみ分別のための呼びかけを環境イベントの際に行い、葉山町へ生ごみ処理器「キエーロ」視察参加後、生ごみ減量の対策の一環として「キエーロ」の製作にも取り組みました。

□ 主な活動内容

1. 環境フェスティバル、環境フリーマーケット、まち・景観シンポジウムでのごみ半減会議の広報
2. キエーロの製作、展示、実証実験
3. Facebook ページ開設及びごみ半減会議の様子を随時更新、Twitter アカウント取得
4. メンバー向けFacebook 講座
5. ミックスペーパー分別の取り組みとして、モデル地区に配布したものと同一ミックスペーパー分別用シールをイベントで配布

□ 活動履歴

〈平成24年〉

- 6月 Facebook ページ開設（以降、Facebook ページでごみ半減会議の活動の報告継続中）
- 8月 葉山町へ生ごみ処理器「キエーロ」視察参加
ごみ組成調査参加
- 9月 市役所内に生ごみ処理実験コーナー設置
Facebook 活用のための Facebook 講座開講
- 10月 Twitter アカウント取得

〈平成25年〉

- 3月 まち・景観シンポジウムで「キエーロ」展示説明、分別クイズコーナー
これまでの活動などを紹介したスライドショー制作・放映
- 4月 生駒市役所ロビーに「キエーロ」展示
- 6月 環境フェスティバルにて「キエーロ」展示説明、分別クイズコーナー
- 9月 環境フリーマーケットにて「キエーロ」展示説明

□ キエーロ製作の報告

バクテリアでキエーロを神奈川県葉山町から購入すると 13,500 円～16,000 円/台もすること。

共学・共育 WG には、日曜大工ボランティア・グループの「いこまハート工房」に所属するメンバーも居て、安価に入手する方法を検討。まずは、ご自身で作ることを希望された Eco-net 生駒の下山さんに、東大阪の西尾木材工業所から無償で入手した「端材」を提供。畑に直接設置する型を見事に製作された。その後、この成果を耳にした同メンバーの高峯さんも挑戦することとなり、同様に端材を提供、こちらも見事に完成させられた。



グループ・リーダーがデータ採取に使用した小型のベランダ型キエーロ

これに気を良くした同 WG のメンバーは、こともあろうにグループ・リーダーにベランダ型の小型のものを提供するので、データを採取して欲しいと依頼。このデータを今後のプロパガンダに利用する目的で採取開始。使った素材は、鹿児島県の YM 菌が眠っている「カントリー・スーパー」なる完熟堆肥で、通常の土壌菌よりも分解が早く、データにならず断念。

改めて、グループ・リーダーの指示の元、同メンバーは市の環境事業課に自前でキエーロを製作することを提案、いこまハート工房も気軽に仕事を受け、直置き型とベランダ型の台を製作。現在、展示用に市役所に保管されている。

その後、正式に東大阪の西尾木材工業所から直置き型とベランダ型の 2 種類各 10 台を製作する端材の見積もりを取り、モデル地区の希望者へ配布を目的として製作の検討を開始。

環境事業課からの正式な依頼に基づき、7 月 22～23 日で直置き型 4 台、ベランダ型 1 台を、いこまハート工房が生駒市福祉センターの陶芸室を借りて製作。また、8 月 9 日には直置き型 4 台、ベランダ型 3 台の 7 台が完成する見込みである。

環境フェスタに展示したキエーロ 2 種



直置き型キエーロ



ベランダ型キエーロ

□ 総括

社会変革 WG は、ごみ減量の仕組みづくりをテーマに活動を推進してきました。

具体的活動は、ECO-net 生駒の活動にリンクし、協働で活動してきました。

活動計画は年間計画として、あらかじめごみ半減会議に提出し、確認を取って進めました。

活動内容としては生駒市民に対し、ごみ減量の意識付け啓発活動が中心ですが、事業者に対しても、レジ袋の無料配布削減や、ばら売り、量り売りの充実など、ごみの出ない「環境にやさしい売り方について意見交換会」を定期的で開催し、意見交換の仕組みづくりを進めてきました。

また、「ごみ処理施設見学会」を自治会役員及び市民対象に開催し、参加者から非常に参考になったと好評を得、今後も継続して開催する仕組みができました。

各イベント会場では、生ごみ処理器「キエーロ」の展示啓発活動や、「レジ袋に関するアンケート」にも多くの市民の参加があり、ごみ減量やレジ袋削減に市民の意識が高まりつつありますが、無関心層も多くごみ減量に向けた、さらなる啓発活動が必要です。

□ 活動内容と実績

生駒市民に対して

- 1、環境市民養成講座（ECO-net 講座）で「生駒市のごみ問題」の講座を開催。

H24/6/10「生駒市のごみ問題について」浅利先生の講座を実施した。約80名参加。

- 2、市内ごみ処理施設見学会の実施

合計8回実施、125自治会中72自治会で、約130名（スタッフ含む）が参加した。

H24/12/12には吹田市資源リサイクルセンター「くるくるプラザ」の見学会を実施。

- 3、「レジ袋に関するアンケート」・・・市民対象の調査を実施

市民を対象にレジ袋削減に関するアンケートを実施した。

市民約1,400名のアンケートの結果、レジ袋無料配布中止に66%の賛同がありました。

- 4、イベント会場での啓発活動

イベント会場において、ごみ分別の呼びかけ、分別クイズ、生ごみ処理器「キエーロ」の展示説明を実施しました。

- 5、「環境にやさしい買い物ハンドブック」の作成

H25/6より、環境にやさしい賢い買い物術「エコな買いもの術」として広報いこまに連載しました。

事業者に対して

- 1、「環境にやさしい売り方・買い方について」市内スーパー15店舗と市民・行政との意見交換会を2回実施した、生駒商工会議所の参加も得ることができました。

レジ袋に関するアンケート調査の報告、市内小売店の実態調査報告、環境負荷の少ない売り方・買い方について、などの意見交換をおこなった。

- 2、「レジ袋無料配布削減に関するアンケート」・・・事業者の調査を実施

市内スーパー15店舗を含め、小売店40店舗様にレジ袋配布の実態調査を実施した。

調査の結果、市内全スーパーから条件付きでレジ袋有料化に賛同がありました。

また「減らそうレジ袋・持っていこうマイバック」の啓発ポスターを市内スーパーに配り店内に掲示していただいた。（H25/1～H25/6まで）

□ 活動履歴

<H24年>	
6月10日	環境市民講座（ECO-net 講座）で「生駒市のごみ問題」講座を実施 約80名参加
8月2日	葉山町へ生ごみ処理器「キエーロ」視察参加
8月8日	ごみ組成調査参加
8月22日	第2回市内スーパーと「環境にやさしい売り方買い方」意見交換会 （参加店舗の関係で2日に分けて開催）
8月23日	
8月30日	第1回ごみ処理資源化施設見学会（連合自治会役員対象）17名参加
10月28日	環境市民講座（ECO-net 講座）で「誰でもできるごみダイエット」企画発表
11月7日	第2回ごみ処理資源化施設見学会（北地区①）11名参加
11月10日	高山サイエンスプラザにて「レジ袋に関するアンケート」実施
11月中旬	事業者に対する「レジ袋に関するアンケート」発送、回収
12月7日	第3回ごみ処理資源化施設見学会（東地区）8名参加
12月12日	吹田市千里リサイクルプラザ見学会
12月21日	第4回ごみ処理資源化施設見学会（北地区②）10名参加
12月20日	市内スーパー15店舗に「マイバック持参」啓発ポスター掲示
<H25年>	
1月16日	第5回ごみ処理資源化施設見学会（中地区）15名参加
1月27日	環境シンポジウムにて「レジ袋に関するアンケート」実施
2月7日	奈良県地球温暖化対策地域協議会で意見交換会
2月8日	第6回ごみ処理資源化施設見学会（南地区）18名参加
2月27日	第3回市内スーパーと「環境にやさしい売り方買い方」意見交換会 （参加店舗の関係で2日に分けて開催）
3月3日	
3月6日	第7回ごみ処理資源化施設見学会（西地区）12名参加
3月10日	まち・景観シンポジウムにて「キエーロ」展示説明・アンケート実施
3月12日	ごみ組成調査参加
3月13日	第8回ごみ処理資源化施設見学会（山崎町自治会）21名参加
3月13日	奈良市地球温暖化対策地域協議会とレジ袋削減に関する意見交換
6月15日	「広報いこま」に「エコな買い物術」を1年間の予定で連載
6月17日	環境フェスティバルにて「キエーロ」展示説明・アンケート実施
7月11日	地球環境を考える自治体サミットに参加、テーマ「ごみ減量活動・これからの課題」
7月13日	ごみ半減モデル地区住民懇談会に参加（ひかりが丘地区）
8月3日	ごみ半減モデル地区住民懇談会に参加（壱分町東地区）
8月3日	どんどこ祭りで「ごみ分別啓発活動」に参加
8月5日	ごみ組成調査参加
8月17日	ごみ半減モデル地区住民懇談会に参加（俵口地区）
9月7日	環境フリーマーケットにて「キエーロ」展示説明・アンケート実施
9月23日	キエーロ情報交換会に参加

社会変革 WG メンバー

ECO-net 生駒（下山・新海・高良・諸熊・高峯） 株生駒市衛生社

田中・挽地

活動事例



環境フェスティバルで「キエーロ」の展示



ごみ処理施設見学会（生駒市衛生社）



レジ袋に関するアンケート調査



吹田市リサイクルプラザ見学会



どんどこ祭りでごみ分別クイズ



事業者と「環境にやさしい売り方」意見交換会

以上。

6. トライアルモデル地区アンケート集計結果(平成25年3月実施)

ごみについてのアンケート集計表(ひかりが丘)

○対象:592世帯、回収数:538、回収率:90.9%

質問項目	単位(%)	
質問1 家族構成についてお伺いします。		
1. 1人	5	
2. 2人	36	
3. 3人	26	
4. 4人	21	
5. 5人以上	12	
質問2 回答いただいた方についてお伺いします。		
[性別]1. 男性	12	
2. 女性	88	
[年齢]1. 10代	0	
2. 20代	2	
3. 30代	7	
4. 40代	14	
5. 50代	31	
6. 60代	38	
7. 70代	7	
8. 80代以上	1	
質問3 生駒市がごみ半減に取り組んでいることを知っていますか。		
1. 知っている	94	
2. 知らない	6	
質問4 あなたは、お住まいの地区がごみ半減のモデル地区ということを知っていますか。		
1. 知っている	89	
2. 知らない	11	
質問5 モデル地区になってから(2012年10月頃から)、ごみを削減しようという意識はかわりましたか。		
1. とても変わった	30	
2. 少し変わった	63	
3. 変わらない	7	
(質問4で「知っている」と答えた方のみ)		
質問6 モデル地区になってから、ごみの量は減りましたか。		
1. とても減った	21	
2. 少し減った	61	
3. 変わらない	18	
4. 増えた	0	

質問項目		単位(%)	
質問7 現在、1週間(可燃ごみ収集2回分)にどの程度の可燃ごみを出していますか。45リットルのゴミ袋のだいたいの数をお答えください。			
1. 1袋未満	25		
2. 1袋程度	36		
3. 2袋程度	34		
4. 3~4袋程度	5		
5. 5袋以上	0		
質問8 あなたは、ごみを削減するために次のような行動をしていますか。(複数回答)			
1. 家族全員が協力してごみの分別や削減に心がけている	57		
2. 自分は努力しているが、家族はあまり協力的ではない	21		
3. 必要なもの以外は買わないなど、なるべくごみが出ないように心がけている	44		
4. リユースできるものは捨てずに、ほかの人に譲るなどしている	25		
5. リサイクルできるものは分別を徹底するようにしている	61		
6. 生ごみを自家処理している	6		
7. 生ごみを出すときはしっかり水切りをしている	69		
8. 自治会や地域の集団資源回収に協力している	73		
9. スーパーなどの回収拠点を利用している	20		
10. もったいない陶器市や、使用済み食用油の拠点回収等を利用している	13		
11. 個人で廃品回収業者に出している	14		
12. 買い物にはマイバッグなどを持参し、レジ袋はもらわないように心がけている	57		
13. その他	1		
質問9 あなたが分別しているものを選んでください。(複数回答)			
1. 新聞紙	89		
2. 本・雑誌	89		
3. ダンボール	91		
4. ミックスペーパー	65		
5. 牛乳パック	55		
6. ペットボトル	93		
7. プラスチック製容器包装	89		
質問10 「質問9」で分別していないものがある方は、その理由を選んでください。(複数回答)			
1. 別けるのが面倒	12		
2. 何を分別すれば良いかわかりにく	9		
3. 出す場所が遠い	1		
4. 収集の回数が少ない	4		
5. いつ、どこに出せば良いかわからない	3		
6. 自治会や地域で集団資源回収に取り組んでいない	0		
7. 分別する必要はないと思う	2		
8. その他	11		
質問11 ミックスペーパー分別用のシールを利用しましたか。			
1. 利用した	39		
2. 利用しなかった	46		
3. シールのことを知らなかった	15		

質問項目	単位%	
Q.1 生ごみの処理についてお伺いいたします。(複数回答OKです)		
1. 水切りをトライアル以前より意識的になった	67.4	
2. 庭若しくは畑等で堆肥・分解をしている	23.2	
3. 特にしていない	14.0	
4. キーロのトライアルをしてみたい	7.0	
Q2.プラスチック製容器包装の分別についてお伺いいたします		
1. 洗いをしてほとんど分別している	76.7	
2. 洗いをしなくてすむものは分別している	23.3	
3. 特に分別をせず焼えるごみと一緒に排出している	0.0	
Q3 Q2で3と回答された方の理由	0.0	
Q4.ミックスペーパーの分別についてお伺いいたします		
1. ほとんど分別をしている	67.4	
2. 手間がかからないものは分別している	23.2	
3. 特に分別をせず焼えるごみと一緒に排出している	9.4	
Q5 Q4で3と回答された方の理由		
1. 分けるのが面倒	60.0	
2. 何を分別すれば良いのかわからない	40.0	
3. その他 * (分別するスペースがない。時間が無い)		
Q6. 新聞・雑誌・ダンボールの分別についてお伺いいたします。		
【新聞】 1. ほとんど資源回収として排出している	86.0	
2. 時々分別をしている	4.7	
3. 分別をせず焼えるごみと一緒に排出している	0.0	
【雑誌】 1. ほとんど資源回収として排出している	86.0	
2. 時々分別をしている	4.7	
3. 分別をせず焼えるごみと一緒に排出している	2.3	
【ダンボール】 1. ほとんど資源回収として排出している	83.7	
2. 時々分別をしている	7.0	
3. 分別をせず焼えるごみと一緒に排出している	0.0	
Q7 Q6で3と回答された方の理由		
1. 分けるのが面倒	50.0	
2. 何を分別すれば良いのかわからない	100.0	

【総評】

1. 回収率 :53.8%
2. アンケートに回答された方はごみ半減に前向きに取り組んでいることが伺われる
3. 資源ごみは全体として7割～8割強の方が分別をされている。
 - 1) プラスチックは洗い等の手間を除けば全員が分別している
 - 2) ミックスペーパーは約9割の方が何らかの分別をしている。
 - 3) 新聞・雑誌・ダンボールは約9割の方が分別をしている。
4. 生ごみ処理は半数以上が水切り等意識が向上されているが堆肥・分解等の対応は2割強である。

【今後の課題】

1. 資源ごみの分別による削減は大きな期待が出来ないと思えることから生ごみの処理がやはり重要となっている。
2. キーロのトライアルをしてみたいが7%あることから堆肥・分解への取り組み拡大をしていくことがポイントと考える。

ごみについてのアンケート集計表(俵口)

○対象:21世帯、回収数:15、回収率:71.4%

質問項目	単位(%)	
質問1 家族構成についてお伺いします。		
1. 1人	7	
2. 2人	27	
3. 3人	46	
4. 4人	13	
5. 5人以上	7	
質問2 回答いただいた方についてお伺いします。		
[性別]1. 男性	20	
2. 女性	80	
[年齢]1. 10代		
2. 20代	0	
3. 30代	13	
4. 40代	27	
5. 50代	27	
6. 60代	27	
7. 70代	6	
8. 80代以上	0	
質問3 生駒市がごみ半減に取り組んでいることを知っていますか。		
1. 知っている	100	
2. 知らない	0	
質問4 あなたは、お住まいの地区がごみ半減のモデル地区ということを知っていますか。		
1. 知っている	87	
2. 知らない	13	
質問5 モデル地区になってから(2012年10月頃から)、ごみを削減しようという意識はかわりましたか。		
1. とても変わった	36	
2. 少し変わった	57	
3. 変わらない	7	
(質問4で「知っている」と答えた方のみ)		
質問6 モデル地区になってから、ごみの量は減りましたか。		
1. とても減った	7	
2. 少し減った	64	
3. 変わらない	29	
4. 増えた	0	

質問項目	単位(%)	
質問7 現在、1週間(可燃ごみ収集2回分)にどの程度の可燃ごみを出していますか。45リットルのゴミ袋のだいたいの数をお答えください。		
1. 1袋未満	13	
2. 1袋程度	67	
3. 2袋程度	13	
4. 3~4袋程度	7	
5. 5袋以上	0	
質問8 あなたは、ごみを削減するために次のような行動をしていますか。(複数回答)		
1. 家族全員が協力してごみの分別や削減に心がけている	33	
2. 自分は努力しているが、家族はあまり協力的ではない	40	
3. 必要なもの以外は買わないなど、なるべくごみが出ないように心がけている	60	
4. リユースできるものは捨てずに、ほかの人に譲るなどしている	20	
5. リサイクルできるものは分別を徹底するようにしている	40	
6. 生ごみを自家処理している	7	
7. 生ごみを出すときはしっかり水切りをしている	60	
8. 自治会や地域の集団資源回収に協力している	67	
9. スーパーなどの回収拠点を利用している	60	
10. もったいない陶器市や、使用済み食用油の拠点回収等を利用している	47	
11. 個人で廃品回収業者に出している	7	
12. 買い物にはマイバッグなどを持参し、レジ袋はもらわないように心がけている	73	
13. その他	0	
質問9 あなたが分別しているものを選んでください。(複数回答)		
1. 新聞紙	93	
2. 本・雑誌	67	
3. ダンボール	73	
4. ミックスペーパー	47	
5. 牛乳パック	60	
6. ペットボトル	93	
7. プラスチック製容器包装	93	
質問10 「質問9」で分別していないものがある方は、その理由を選んでください。(複数回答)		
1. 別けるのが面倒	20	
2. 何を分別すれば良いかわかりにく	13	
3. 出す場所が遠い	0	
4. 収集の回数が少ない	0	
5. いつ、どこに出せば良いかわからない	7	
6. 自治会や地域で集団資源回収に取り組んでいない	0	
7. 分別する必要はないと思う	7	
8. その他	20	
質問11 ミックスペーパー分別用のシールを利用しましたか。		
1. 利用した	43	
2. 利用しなかった	43	
3. シールのことを知らなかった	14	

ごみ組成調査分析結果報告 (平成25年3月調査)

平成25年3月にごみ半減モデル事業の対象地区に実施した組成調査の分析結果を以下の通り報告いたします。

《組成調査対象地区》

- ・ひかりが丘
- ・壱分町東(ゴタニ池、第1公園前、ネオハイツ)
- ・俵口町

目 次

- I. 組成調査分析の基本的な考え方
- II. 組成調査分析の狙い
- III. 組成調査分析の参考情報
- IV. 組成調査分析の結果とコメント
- V. 組成調査分析結果の評価
- VI. ごみ半減モデル事業トライアル取り組み課題

I.【組成調査分析の基本的な考え方】

1. 平成24年10月より実施されているごみ半減トライアルの状況を踏まえた分析とする。
2. 平成25年3月に実施した懇談会及びアンケート調査(壱分町東)の結果を考慮し分析する。
3. 月次で計量されている集計結果との傾向を比較する。
4. 焼却ごみの総排出量の増減比較を行い順次カテゴリ別にブレイクダウンをしていく。

II.【組成調査分析の狙い】

1. ごみ半減トライアルを継続していく上での課題を抽出する。
2. 課題の優先付けを行い直近に対応していくものと中長期に検討していく課題を明確に区分する。

III.【組成調査分析の参考情報】

下記3情報を基に分析を行う。

1. 組成調査結果地域別年度別一覧表(別紙A)
 - 1) 生駒市環境事業課で取りまとめた組成調査結果を基に作成。
 - 2) 平成24年8月に調査したデータと一覧で比較出来るようにする。
 - 3) 市が大別している区分が「リサイクルできるもの」と「それ以外」となっているものを、現在の仕組みとして「資源化できるもの」と「資源化ができず焼却しているもの」に区分する。
 - 4) 1世帯当たり、一人当たりの分析は今回対象外とする。
2. 平成25年3月に実施したアンケート調査結果(壱分町東 別紙B 回収率53.8%)
 - 1) アンケートに回答された方はごみ半減に前向きに取り組んでいることが伺われる。
 - 2) 資源ごみは全体として7割～8割強の方が分別をされている。
 - (1) プラスチックは洗い等の手間を除けば全員が分別している。
 - (2) ミックスペーパーは約9割の方が何らかの分別をしている。
 - (3) 新聞・雑誌・ダンボールは約9割の方が分別をしている。
 - 3) 生ごみ処理は半数以上が水切り等意識が向上されているが堆肥・分解等の対応は2割強である。

《今後の課題》

- 1) 資源ごみの分別による削減は大きな期待が出来ないと思えることから生ごみの処理がやはり重要となっている。
- 2) キーロのトライアルをしてみたいが7%あることから堆肥・分解への取り組み 拡大をしていくことがポイントと考える。

3. 平成25年3月に壱分町東で実施した懇談会(別紙C)

《総評》

- 1) 特にキーロの状況については、現在コンポスト等で堆肥処理をしている方、または水きり以外されていない方等の背景に関係なく興味を持たれた模様であった。
- 2) ベランダdeキーロよりキーロの方が分解処理の効果があるように見受けられる。結論としては各家庭での状況を考慮し、コンポスト等との組み合わせが効果的と言えるのではないかと。
- 3) ごみの減量は継続していくことが重要であることから日常生活の流れでの仕組みの工夫を実践していくのがポイントではないかと。例えば発生主義で分別できるようにするとか無理をせず足元のできることから実践していく。
- 4) 市より提供されたミックスペーパーシールは好評で分別に大いに役に立ったと言える。
- 5) トライアル集積所の一つであるネオハイツでは12月度40%の削減がされたが、主な要因として資源化分別の意識付けと牛乳パック等スーパーへの持込増加が考えられる。

IV.【組成調査分析の結果とコメント】（一覧表から読み取れるもの）

1. 可燃ごみ総排出量合計（一覧表⑥）

- 1)平成24年8月に比し壱分町東は16～25%減少している。ひかりが丘はほぼ同じであるが俵口は8%増加している。
- 2)この傾向は月次計量結果のデータと比較しても同様であると言える。

2. 焼却合計（一覧表⑤）

- 1)2012年に比し可燃ごみ総排出量合計の増減傾向と同様となっていると言える
- 2)壱分町東は9～17%強減少しているがひかりが丘は8%弱、俵口町は24%強増加している

3. 厨芥類（生ごみ）

- 1)2012年8月に比し壱分町東は16～21%減少しているがひかりが丘で8%弱、俵口町は34%強増加している。
- 2)2013年3月においても生ごみの可燃ごみ総排出量合計に対し全地域とも44～47%の割合となっている
- 3)このことは「ごみ半減プラン(2011～2020年度)にも市全体の統計として掲載されている生ごみの量の割合(35%)と同様となっている。
- 4)壱分町東である家庭での計量実績(40%)ともほぼ同期している

4. その他（捨てるもの）

- 1)壱分町東のネオハイツのみ19%減少しているが他地域は3～19%増加している。
- 2)2013年3月においても捨てるもの可燃ごみ総排出量合計に対し全地域とも23～33%の割合をしめている
- 3)従って生ごみと捨てるものを合わせると可燃ごみ総排出量合計に対し全地域とも約70%前後の割合を占めている

5. 資源化可能合計（一覧表④）

- 1)2012年8月に比し全地域とも18～41%減少しておりバラつきはあるが分別処理が進んでいる。
- 2)このことは2013年3月壱分東アンケート調査結果と同期している

6. 紙類（一覧表①）

- 1)2012年8月に比し分別度は全地域で13～40%の減少で資源化合計とほぼ似たような傾向となっている。
- 2)2013年8月のミックスペーパーは全地域とも可燃ごみ総排出量合計に対し6～12%の割合となっているが紙類内でみると65～90%の割合となっている。

7. プラスチック類（一覧表②）

- 1)2012年8月に比し分別度は全地域で12から41%の減少で資源化合計とほぼ似たような傾向となっている。
- 2)2013年3月のプラスチック製容器は全地域とも可燃ごみ総排出量合計に対し6～10%の割合となっているが紙類内でみると76～81%の割合となっている。

V. 【組成調査分析結果の評価】

1. 今回実施した組成調査結果は月次に計量されている増減割合とほぼ同じ傾向にあると言える
2. 月次に計量結果の推移から伺えるようにトライアル事前・2012年10月度の比し月度により凹凸はあるが俵口以外は減少している。
俵口は別途別角度からも個別に分析が必要と考える
3. 今回実施した組成調査結果は同時期の2013年3月に実施したアンケート調査結果の内容を裏付けるデータとなっていると言える
4. 今回の生ごみの40%占めているという結果はごみ半減トライアル開始時点から想定されていたように生ごみの対応が最優先課題と言える
5. 紙類・プラスチック類等現在資源化ごみの分別処理は前向きな方は既に取り組んでおり今後大きく減少していくことは現実的に厳しいと考える
6. 捨てるものについては
 - 1) 可燃ごみ総排出量合計に対し24～33%とかなりの割合を占めているが恐らく買い控え等マインド的な要素が占めていると言える
 - 2) 資源化等減少させていくための仕組みを構築していくことは難しく現実として不可能に近いと思える
 - 3) 従って捨てるものを減少させていくことは当分出来ないものとする必要がある

VI. 【ごみ半減モデル事業トライアル取り組み課題】

《総論》

1. 上記評価欄にも述べているがごみ半減トライアルでの今後の減少は多くは期待できないと見るのが妥当である
2. 特に資源化可能な分別処理が実質期待できない状況であること
3. 今回の組成調査結果でも確認されたように生ごみが全体ごみの半数近くを占めているため生ごみの量を減少していくことがごみ半減を実現していくキーとなっている
4. 生ごみの資源化を含めた仕組みの構築も含めた対応を最優先として取り組むべきである

《短期》

1. 生ごみ処理の対応
 - 1) ごみ半減トライアル中に生ごみ処理として具体的な施策として水切り、キエーロのトライアル、堆肥の促進等を中心に行っている
 - 2) 堆肥処理は既に来る環境をお持ちの方はトライアル以前から実施しており今後の増加は期待できない
 - 3) キエーロもトライアルされている方が数人規模であり冬場の分解能力の問題等もあり夏場でのトライアル結果の動向が注目に値する
 - 4) 現実的な取り組み施策
 - (1) 水切りの徹底の継続のお願い
 - (2) 市の予算負担でのキエーロのトライアルをして頂く方を増やす。
少なくとも現在キエーロのトライアルをしていない俵口町は生ごみの割合が一番高いこともあり積極的なトライアルを期待する。
2. 資源ごみの継続分別
 - (1) ミックスペーパー、プラスチック製容器を中心に分別処理の継続の啓発活動

《中長期》

- 1) 家庭生ごみを分解する等資源化していく仕組みを市が構築すべき検討を開始する
- 2) 例えばエコパーク21の活用とか具体的に設計し予算面の問題も含め明確に市民に発信していくべきと考える

8. 「ごみ減量化に向けて」アンケート(平成25年7月実施)結果集計
平成23年10月実施分との対比

		回答結果(%)	
		2013年	2011年
回答率		41.36	43.56
Q1. 回答者			
	世帯主	30.7	32.8
	配偶者	58.4	58.3
	子	8.8	7.3
	その他	1.6	1.5
	無回答	0.5	0.1
Q2. 性別			
	男性	25.8	27.4
	女性	73.2	72.5
	無回答	1.0	0.1
Q3. 年齢			
	20歳代	4.7	5.2
	30歳代	14.1	15.0
	40歳代	17.8	16.3
	50歳代	18.3	18.6
	60歳代	26.3	27.3
	70歳代	14.1	13.3
	80歳代以上	3.7	4.2
	無回答	1.0	0.1
Q4. 住所			
	北地区	30.8	31.4
	西地区	21.5	20.5
	中地区	15.8	15.7
	東地区	9.4	11.0
	南地区	18.0	19.9
	無回答	4.6	1.5
Q5. 環境・ごみ問題に関心はありますか			
	大に関心がある	40.2	39.9
	少し関心がある	54.4	53.4
	あまり関心がない	4.0	5.6
	全く関心がない	0.7	0.6
	無回答	0.8	0.5
Q6. 環境・ごみについての情報・知識を得る方法として、やっていることがあればお答えください			
	環境・ごみ問題に関する新聞記事やテレビを見る	59.7	37.4
	市の広報紙やリーフレットなどを見る	71.0	45.4
	環境・ごみ問題に関する講演会やイベントなどに参加したことがある	7.5	3.3
	ごみ・リサイクル施設の見学に参加したことがある	12.7	7.2
	その他	4.1	1.4
	何もやっていない	8.8	5.0
Q7. あなたは「ごみ半減プラン」を知っていますか			
	内容までよく知っている	5.2	5.1
	内容を少し知っている	33.8	26.5
	名前は聞いたことがある	33.6	28.1
	まったく知らない	26.6	31.8
	無回答	0.8	8.5

Q9. あなたは今後以下のようなことをやろうと思いますか			
5	不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等に出す		
	すでにやっており、今後も引き続き行いたいと思う	32.8	42.9
	すでに行っているが、今後はあまり行いたいとは思わない	4.4	4.0
	これまでにいったことはないが、今後は行いたいと思う	36.3	34.6
	これまでにいったことはなく、今後も行いたいと思わない	21.6	16.1
	無回答	5.0	2.4
6	ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする		
	すでにやっており、今後も引き続き行いたいと思う	94.5	94.3
	すでに行っているが、今後はあまり行いたいとは思わない	1.2	2.3
	これまでにいったことはないが、今後は行いたいと思う	1.2	1.6
	これまでにいったことはなく、今後も行いたいと思わない	0.5	0.4
	無回答	2.7	1.4
10	環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりする		
	すでにやっており、今後も引き続き行いたいと思う	23.9	27.8
	すでに行っているが、今後はあまり行いたいとは思わない	4.3	2.2
	これまでにいったことはないが、今後は行いたいと思う	37.0	45.9
	これまでにいったことはなく、今後も行いたいと思わない	24.6	21.3
	無回答	10.3	2.8
Q10. 「半減プラン」の重点施策としている施策について、どの程度効果的だと思いますか			
1	“もったいない運動”を展開し、ごみを出す人の意識を変え、発生抑制を促す		
	非常に効果的と思う	31.6	27.7
	やや効果的と思う	39.9	43.3
	あまり効果的と思わない	13.1	14.3
	効果的と思わない	3.4	3.8
	どちらとも言えない	6.1	5.2
	無回答	5.9	5.6
2	プラスチック製容器包装の分別収集		
	非常に効果的と思う	50.1	38.2
	やや効果的と思う	32.3	38.0
	あまり効果的と思わない	8.1	10.6
	効果的と思わない	2.6	5.0
	どちらとも言えない	2.5	3.3
	無回答	4.4	5.0
3	集団資源回収の活性化、紙ごみの分別収集など、紙類の資源化に取り組む		
	非常に効果的と思う	54.8	48.0
	やや効果的と思う	32.6	36.5
	あまり効果的と思わない	3.9	6.3
	効果的と思わない	1.5	2.0
	どちらとも言えない	2.6	2.2
	無回答	4.6	4.9
4	家庭系ごみ処理の有料化を導入する		
	非常に効果的と思う	12.5	10.8
	やや効果的と思う	22.6	24.2
	あまり効果的と思わない	22.6	19.7
	効果的と思わない	21.4	27.8
	どちらとも言えない	16.2	12.2
	無回答	4.7	5.2

5	バイオマス(生ごみ・剪定枝等)の資源化に取り組む		
	非常に効果的と思う	30.0	25.7
	やや効果的と思う	40.9	42.1
	あまり効果的と思わない	10.9	11.5
	効果的と思わない	3.5	4.8
	どちらとも言えない	9.3	9.9
	無回答	5.4	6.1
Q11. ごみ有料化についての意見をおうかがいします			
1	有料化になった場合、いくらくらいまで1か月に負担してもいいと思いますか		
	1,000円以上	0.7	1.0
	500円～1,000円	10.1	9.6
	300円～500円	27.8	24.4
	300円以下	28.2	25.8
	少しであっても負担したくない	28.8	32.8
	無回答	4.4	6.3
2	あなたの世帯では1か月の負担がいくらくらいになれば、今よりごみの減量に取り組うと思いますか		
	1,000円以上	9.3	7.5
	500円～1,000円	15.1	14.2
	300円～500円	16.2	15.2
	300円以下	15.9	17.4
	いくらであっても思わない	34.5	37.5
	無回答	9.0	8.2